

緑の相談所だより

{ 8.9月号 ~1992.7.31 ~ 発行・編集 旭川市緑の相談所 }

太陽の恵みを受けて、植物も私たちも日々暮らしています。

植物は夏の管理しだいで、花、姿、形を楽しめるものです。

この時期をいかに上手に管理するかにかかっているのではないのでしょうか。

《講習会》

植物の生活と秋の肥料

日 時.....8月23日(日) 午後1~3時

講 師.....旭川市緑の相談所相談員
小島博昭

内 容.....◎植物の生活形態と越冬
◎越冬準備のための肥料

定員→60名

シンビジウム デンドロビウムなどの 診断と管理

※なるべく鉢をお持ちください

日 時.....9月13日(日) 午後1~3時

講 師.....旭川市緑の相談所相談員
村田正一

定員→50名

☆ 栽 景 ☆

鉢の中に景色を作ろう

鉢の中に石と草木を組み合わせ
て景色を作り出すのが栽景です。
本格的な盆栽はなかなかという人
も、手軽に楽しめます。

材 料

- ・平鉢
- ・石ころ(道で拾ったもの)
- ・小さな草、木
(庭の隅に生えている)
- ・苔

日 時.....9月27日(日)
午後1~3時

講 師.....道立愛別高等学校教諭
本郷仁

定員→50名

参加料は無料。定員になりしだい締め切
らせていただきます。お申込・お問い合
わせは、旭川市緑の相談所

電話65~5553

季節の花ことば

ひまわり・・・光輝



向日葵。海の精クリティが太陽の神アポロンに恋をしましたが、思いはかなわず、立ちつくすばかり。とうとう花になってしまいました。ソフィア・ローレンとマルチェロ・マストロヤンニの映画のひまわり畑はとても印象的でした。

植物の質問箱

花は水の中で切ると 長もちするってホント？



切り花が早くしおれるのは、切り口がふさがってよく水があがらなくなることが多いからです。

切り口から流れ出る養分に、細菌などの微生物がたくさんふえて、膜を作ってふさぐことがよくあります。切り口を焼いて炭にすれば微生物は生えにくくなるので、これを防ぐことができます。

また、植物自身が切り口から粘液を出して、これが空気中でかたまって水をよく通さなくなったり、導管の中に空気の泡がはいて、水があがるのを妨げたりしますが、これは、水の中で切ることによってかなりふせげます。切り花の茎を時々切りなおすと、長もちするのもこんな理由のためです。

◇ ナチュラル・コスメティック ◇

身近な香り草、ハーブを、私たちの祖先は、さまざまに利用してきました。今でこそ、「ハーブ化粧品」は目新しい商品のように思えますが、はるかな昔から人々は、野原や菜園のハーブを上手に使って、美容と健康に役立ててきたのです。一度お試しください。

《ハーブ化粧水の作り方》

★カモミールとポットマリーゴールド★

熱湯200ccに対し、ドライハーブ各小さじ1（フレッシュハーブならその2倍）ふたをして冷めるまで待ちます。これをこして瓶に詰め冷蔵庫で保存し3～4日で使いきります。

肌にやさしく1年中どんな時でも使えるソフトな化粧水。

★バラの花びらとウスベニアオイ★

熱湯200ccに対し、バラの花びら（ドライ）小さじ1、ウスベニアオイの花3～4輪。以下同様。肌を引きしめ元気づける化粧水。冷蔵庫で冷やして用いると気分爽快。作りすぎた場合小分けにして冷凍。使う際に解凍すると便利。

「夏から秋へ」

旭川市緑の相談所相談員 村田 正一

8月上旬は暑さの盛りですが下旬ともなると秋の気配がたどよい、9月は秋の本番となります。夏から秋へと大きく変わる時期ですから植物の管理も変わり、冬に向けての準備も始まります。

熱帯産の観葉植物、花木など

熱帯性の観葉植物は7月に引き続いて外に置き、気温の高いうちに水と肥料を十分に施して樹勢をつけておきましょう。肥料は磷酸、加里分の多いものを与え、がっしりと固く育てておくと冬の弱りも少なくて済みます。9月に入ったら置肥は止め、液肥も薄めにして与えます。

カイガラムシ→カボックやベンジャミンなど葉が蜜のようなものでべとべとしていたらカイガラムシがついています。カルホス乳剤かスプラサイド乳剤を4～5日おきに3回くらい繰り返してかけてください。

オゾンシツコナジラミ→1cmほどの小さな真っ白な羽虫がこれです。特にポインセチヤ、ホクシヤ、ハイビスカスなどに好んで着きます。カイガラムシと同じ薬が効きます。

病気も害虫も外にある間に完全に退治してから室内に取りこみましょう。

9月中・下旬には寒さに弱いものから室内に取り込みます。霜に当たらないよう夕方の気温に注意して取り込みましょう。

夏の間外で過ごしていたものを室内に入れると、環境の変化で葉を落とすことがあります。しがばらくすると慣れてきます。

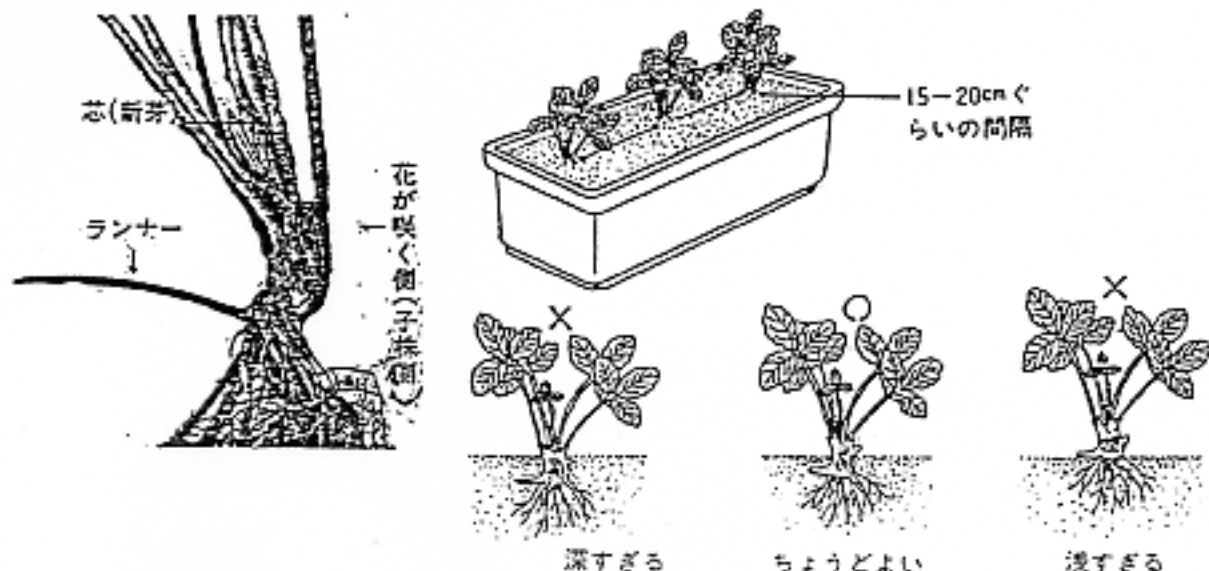
イチゴの苗植え

①8月上旬から中旬が苗の植え付け時期です。庭植えがよろしいですがプランター、鉢でも作れます。植え土には腐葉土か堆肥を3割、苦土石灰少々、磷酸分の多い元肥を混ぜておきます。プランター、鉢植えなら草花用の培養土（園芸店にある）でもいいでしょう。培養土の場合は苦土石灰と肥料をそれぞれ大匙1杯くらい混ぜます。

②苗の準備。親株から出たランナー（つる）に子株が付いていますから元気のいいものを選んで切り取ります。

③植えつけ。庭植えなら株間を30cmで2列植えにします。プランターは15～20cm間隔で3株くらい、鉢植えは5～6号鉢に1～2株植えます。図のように浅植え、深植えにならないように気をつけます。花はランナーの反対側に着きますから花が外側に着くように方向をそろえてください。

④プランター、鉢は乾いたら水をやっておきます。寒さに合って花芽ができますから雪の下で冬を越します。来春暖かくしてやると早く実がなります。



生育期の後半をむかえ庭木類にとっては越冬前の大切な時期でもあります。

このような時期に衰弱木あるいは病虫害木をつくることは庭木類にとっては大きなダメージとなりますので、これからの肥料管理あるいは病虫害の予防については十分な注意が必要です。



植物の状態や
場所によって

必要とする肥料は異なります

《肥料》

生育期に与えて来たチッソ、リンサン分主体の肥料からカリ分主体の肥料に切りかえます。

樹木類の生育の一時休止期である8月中旬すぎから徒長を止め樹木全体を引きしめ寒さに強い樹木を育てるためにカリ肥料をあたえます。

◎カリ肥料としては

- 草木灰＝市販されている草木灰。
ワラ、木、枯れ草などの
燃やしたあとの灰。
- 塩化カリ＝市販の化学肥料。
- 硫酸カリ＝市販の化学肥料。

この他に比較的カリ分の多く含まれているハイポネックスなど。

肥料のカリ分含有率

ワ	ラ	灰	4～5%		
木	の	灰	8～9%		
枯	れ	草	灰	5～6%	
タ	バ	コ	の	灰	20～25%
塩	化	カ	リ	60%	
硫	酸	カ	リ	51%	
ハイ	ポ	ネ	ク	ス	19～20%

◎あたえ方

草木灰＝降雨つづきの場合は根張りの地表面に2～3握り程度ふりまく。土の表面が乾いた状態では水10リットル当たり2～3握りをとがしてあたえます。

塩化カリ・硫酸カリ＝10リットルの水に約10グラム程度をとがし一株あたり2～3リットルあたえます。

ハイポネックス＝10リットルの水に約15グラムをとがし一株あたり2～3リットルあたえます。

◎時季

- 第1回目……8月下旬
- 第2回目……9月下旬
- 第3回目……10月上旬

の時期に施肥。その後は樹木の生育状態や、天候状態により肥料のあたえ方をきめることが大切です。